

日本史 3

社会科教育講座・川岡勉

1. 授業の基本情報

この授業は3回生以上を対象とする科目であり、社会科における基本的な教養として、歴史史料を読解する力を身につけ、史料を通じて日本史の流れと日本社会の特質を理解するところにある。

到達目標として掲げたのは、(1)基本的な史料について、読解して書かれている内容を理解できるようにする、(2)史料の内容を、それが作成された時代状況や地域状況との関わりにおいて捉える視点を獲得する、(3)史料に基づいて、自分の考えをまとめ論述する力を身につける、の3項目である。

関連するDPは、教育に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している(知識・理解)、自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる(関心・意欲)である。

履修登録をしたのは、学校教育教員養成課程の初等教育コース(小学校サブコース)の学生が11名、同課程の中等教育コースの学生が7名(社会科5名・美術1名・保健体育1名)、聴講生1名の19名であったが、このうち3名はほとんど出席しておらず、実質的に16名で授業を進めた。16名は、いずれも3回生である。

授業で取り上げた史料は、次の通り。

- ① 魏志倭人伝
- ① 日本書紀(大化改新の詔)
- ② 方丈記
- ④ 愚管抄
- ⑤ 御成敗式目
- ⑥ 阿豆河莊カタカナ言上状
- ⑦ 二条河原の落書
- ⑧ フロイス日本史
- ⑨ 林家文書
- ⑩ 安政地震史料
- ⑪ 私擬憲法・大日本帝国憲法
- ⑫ 教育勅語・教育基本法

2. 授業時間外学習の促進

各史料の報告担当者(2名)を決めるとと

もに、受講者全員に内容を調べて授業に臨むように指示した。授業は新型コロナウイルスの感染予防をしながら対面方式で行い、報告者からの発表と質疑応答の後、教員がコメントを加えるやり方で進めた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、年明けからはZoomを用いたオンライン方式に切り替えた。毎回の授業における取り組み状況と最終レポートをもとに成績評価を行った。

3. アンケート結果

例年であれば、最後の授業時に紙媒体で授業評価アンケートをとるが、オンライン方式になったため、今年度のDP対応調査を利用した。その結果、回答はわずか4名分しか得られなかった。

この授業に意欲的・積極的に取り組んだかを問うたところ、3名が「とてもそう思う」、1名が「ある程度そう思う」と答えている。授業の目的・到達目標に照らして、自分ほどの程度達成できたかという問いに対しては、「ある程度達成できた」「近づけたと思う」「中の中くらい」「歴史の課題を理解することはできたと思うが、その解決の方法を考えられるようにならないといけないと思う」という回答が寄せられた。予習・復習のために費やした学習時間は平均で一週間に2時間が1名、1時間が3名であった。

4. 総括

取り上げた史料は、中学校の教科書に載っている史料が多いが、これまで史料の原文を正面から読解した経験がないという受講生が多く、貴重な機会になったと考えている。

⑨・⑩は地域教材を授業に活かすことを試みて欲しいという思いで取り上げた。途中でオンラインに切り替えたことでとまどう部分もあったが、出席率はかえってよくなった。残念ながらアンケートの回答が少なかったため評価の手がかりとなるデータは乏しいが、最終レポートを読む限り、受講者は本授業を肯定的に受け止めているように思われる。